なんでもインフォ 2012.8

発 行　株式会社 昭和土木設計
岩手県矢巾町流通センター南４丁目１−23
E-mail　suzuki@showacd.co.jp
Tel 019-638-6834　Fax 019-638-6389

新技術情報提供システム NETIS について

はじめに

NETIS（New Technology Information System）には現在約 4,200 件が技術登録されています。業務でアクセスすることの多い NETIS ですが、関心は技術情報に向かいがちでシステム自体については把握しきれていないのが現実ではないでしょうか。

今月号では、この NETIS について少し触れてみようと思います。

新技術活用システム

NETIS は単独で存在しているものではなく、「公共工事等における新技術活用システム」の中核を担うデータベースです。同システムは、平成 10 年度、行政内部における新技術の情報共有からスタートしました。

その後、平成 13 年度には NETIS の情報がインターネット上で一般公開、平成 18 年度には評価を重視したシステムへと見直され、以降も継続的に改善されています。

新技術活用システムの目的

この新技術活用システムの目的は、民間事業者等により開発された有用な新技術を公共工事等において積極的に活用することで、優れた技術を持続的に創出していくことです。



国土交通省 NETIS パンフレットより

それによって、技術力の優れた企業が伸びる環境が整備されるとともに、結果として、公共工事等の品質の確保やコスト縮減が実現され、良質な社会資本の整備へとつながってゆきます。

コストの縮減と品質の確保

平成 15 年 3 月の「公共事業コスト構造改革プログラム」では平成 15 年度から 5 年間で、平成 14 年度の標準的な公共事業コストと比較し 15%の総合コスト縮減率が目標値として設定され、結果として 14.1%の縮減が達成されました。

しかし、行き過ぎたコスト縮減は品質の低下を招くおそれがあるとして、コストと品質の両面を重視する施策へと転換が図られます。平成 20 年 3 月の「公共事業コスト構造改善プログラム」では、それまでの①工事コストの縮減、②事業のスピードアップによる効果の早期発現、③将来の維持管理費の縮減に加え、④民間企業の技術革新によるコスト構造の改善、⑤施設の長寿命化によるライフサイクルコスト構造の改善、⑥環境負荷低減効果等の社会的コスト構造の改善、を評価する「総合コスト改善率」が新たに設定され、平成 20 年度から 5 年間で平成 19 年度と比較して 15%の総合コスト改善率の達成が目標とされました。

この総合的なコスト構造改善は、「事業のスピードアップ」、「計画・設計・施工の最適化」、「維持管理の最適化」、「調達の最適化」の 4 点を主眼とした 12 の柱と 34 の施策からなっていますが、「公共工事等における新技術活用システム」は 34 施策の 1 つとして取り上げられています。

申請型から評価型へのシフト

NETIS は現在、申請者が提出した技術情報＝申請情報と、産学官委員からなる評価会議等による事前審査・事後評価の情報＝評価情報の 2 つから構成されています。先述の平成 18 年度の見直しでは、この評価による有用な新技術の峻別や活用促進がひとつの大きな目的とされています。

登録番号からわかる情報

NETIS 登録番号は、登録地方整備局等識別記号、登録年度、受付番号、情報種別記号で構成されています。

例えば、KT-980191-V は、関東地整で 1998 年度の 191 番目に登録された技術で評価情報のある技術となります。

登録地整の識別記号は、TH＝東北、KT＝関東、HR＝北陸、CB＝中部、KK＝近畿、CG＝中国、SK＝四国、QS＝九州、HK＝北海道、他に TS＝テーマ設定技術、□□K＝港湾空港部となっています。

この登録番号で重要な情報は、末尾の情報種別記号で「A：Application」と「V：Value」の 2 つがあります。「A」は申請情報のみ、「V」は評価を受けた技術を示し、「V」が付されたものには評価情報が掲載されます。なお、詳細情報なしで登録されている技術もあり、それらについては記号は付与されません。

データ改ざん

今年の 5 月に、特に補修に携わる者にとっては少々ショッキングなニュースが流れました。NEXCO 中日本において平成 18～24 年度のコンクリートはく落対策工事 10 件で使用した含浸材料について、性能基準に係る試験結果の改ざんが判明したというのです（詳しくは NEXCO 中日本の HP に掲載されています）。この工法は「A」種別ではあるものの NETIS に登録のある技術でした。

現在、NETIS には申請情報 4186 件、評価情報 826 件が登録されています。数字が示すように、評価情報がまだまだ少ない点は大きな課題となっていますが、今回のデータ改ざんの発覚で、不正登録の防止についても対策が急がれます。

おわりに

NETIS 登録技術に、データ改ざんがあったのは大変残念なことです。含浸工法のように効果の確認が難しいものについてはそうした業者の入り込む余地があるということも否めない事実としてあるわけですが、だからこそ企業倫理、技術者倫理にもとることのない技術を生み出すのであってほしいと強く思います。

技術情報を理解するだけでなく見極める力も必要な状況となり、技術者としてはまたひとつ頭痛のタネが...。

株式会社 昭和土木設計の紹介

弊社は、道路・河川・橋梁等の計画・設計、GIS、IT ソリューション等の業務を行っております。

”なんでもインフォ“のバックナンバーについては http://www.showacd.co.jp をご覧ください。

配布者

作成者：コンサルタント
沓澤　辰美